

1 学年通信 むらさき集う

平成 25 年 11 月 8 日 発行

発行責任者：結城克明

理科コンテスト・郡山検定

第 2 回学習コンテスト「理科」と「郡山検定」の満点賞受賞者を紹介いたします。定期テスト後もチャレンジ精神を失わず努力した成果です。この結果をバネに次回定期テストでもさらなる向上を目指して欲しいと思います。また、惜しくも満点には届かなかった生徒たち、「今度こそ」の前向きな気持ちで勉強しよう。やればきっと結果はついてくる。がんばれ。

生徒研究発表会

先週末には本校野球部が県大会において優勝という明るい話題を提供してくれました。今週末には東北大会がいわきで行われる予定ですが、来春の全国大会を目指してさらなる活躍を期待いたします。

さて、6 日（水）に労働福祉会館において郡山市生徒研究発表会が行われました。かなり長い歴史を持つ校外行事ですが、本校からは 2 つの団体が選出され、当学年からは 4 名の生徒が参加しました。

文化祭でも発表した「会津学習旅行で学んだこと～生徒アンケートの結果を踏まえて」をもとに「わたしが伝えたいこと」の意見発表を行いました。好評を博した会津日新館の「小侍」による寸劇は今回はムービーという形での参加でしたが、文化祭のステージ発表と寸分違わずに演技できました。さすがです。

万が一！！



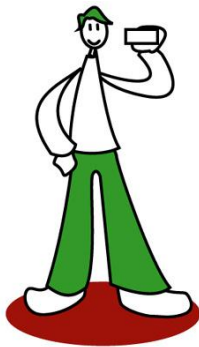
6 日（水）第 2 回目の避難訓練を実施しました。日ごとに寒さが増してきて、これから火を使用する機会も多くなるかと思えます。現在はスイッチひとつで用事が済む場合がほとんどで製品自体に相当の安全対策が施されてはおりますが、それでも火災は起きています。ですから、万が一の場合に備えて、自分はどうのような対応をしたらいいのかを具体的に考えておく必要があります。

また、先週は不審者対応訓練も行いました。裏口から入って、1 年 7 組に侵入するといった状況でした。全体会では、地域サポートチームの方と警察署のかたから、日常的に緊急事態に対応できるよう、一人ひとりが危機意識を持って欲しいとのご指導をいただきました。最も平和で安全な場所と言われていたかつての学校では考えられないことではありますが、火災と同様、いつ起こるか分からない事態に対する心構えをしておくことは大切なのだと改めて感じました。これらの訓練を機に、いつ自分の身に起こるか分からない様々な危険（たとえば、交通事故、外出事故）を予知し、察知する能力（警察署の方も言うておりました。）を養って欲しいと思います。

来週の予定

11 / 11 (月)	B案 月 1・月 2・月 3・火 4 教育相談
12 (火)	B案 火 3・火 4・火 5・火 6 教育相談 ※ 4 校時：総合学習「郷土を学ぶ体験学習」事前学習
13 (水)	A案 水 2・水 3・水 4・水 5・水 6・全校集会 ※ 部休日
14 (木)	「郷土を学ぶ体験学習」ふれあい科学館・天安場史跡公園・美術館 制服着用 弁当持参 サブバッグ 1 校時分の自習の用意 雨具 ※ 普通登校 「とりあえず吾平」下車解散
15 (金)	A案 普通授業 ※ 6 校時：総合学習「郷土を学ぶ体験学習」事後学習 ※ 個人積算線量計回収・配付

談話題 「個性??」



よく人と違った個性的な服装をしたいと、制服を着くずしたりする生徒がいますが、客観的に見ると不快な印象を与えることはもちろんなのですが、それ以上に何か健康面にも悪影響を与えるのではないかと心配になります。個性的な外見がその人独自のものと定評があればまた別ですが、おおかたは流行の発信源があり、それを一般化して大衆に迎えられる場合がほとんどで、それを個性と呼ぶには何か違和感を感じます。

「人と違った個性的な外見になりたい」といいながらもそれらはファッション（流行）であり、その人の個性とは違います。画一化された服装に何ら個性を感じないのであれば、ユニフォームを着たスポーツ選手には個性が無いのでしょうか？実際はそうではなく、その人のアスリートとしての姿勢や能力、生き様が人の関心を惹きつけているので、画一的な外見であっても個性を感じさせるのです。

人は個性的になりたい、個性を認められたいと、個性の本質を知らずに個性への願望が強いように感じます。個性というものは、その人が意識しないところからじわじわとにじみ出てくるものであり、あからさまに披露されたり、ひと目で認識できたりするものではないと思います。

「個性重視」—教育現場でもしばしば用いられますが、わたしなどはそんなに個性を突き詰めなくともよいのではと思うことが度々あります。人の個性、これを計ることは非常に難しく、見た目の華やかさとは全く違うものだと考えます。学校における個性とは、具体的には、しっかりとしたあいさつが常にできる、常に明るくその人がいるだけで元気になれる、掃除の時間に黙々と雑巾がけをする、ゴミが落ちていたら進んで拾う、授業中は真剣そのもので、集中して教師の話聞く、忘れ物をしない、部活動では活動に集中するのはもちろん、活動のあとの整理整頓をまじめに行うなど、日常の普通の場面で自然に発揮されるさりげない「よさ」だと考えています。

ひと昔前まではいまほど個性が尊重され、重視される時代ではなかったわけで、それほど個性を意識しないでも普通に生活できたのです。個性を持たなかったわたしのような普通の子どもでも、とても居心地のよい世界でした。その当時言われていた個性はどちらかといえば、「あくが強い」という解釈だったと思われ、あまり歓迎されていませんでした。「個性」という言葉すら耳にすることはなかったような気がします。それは、他人を置き去りにしたものだからでしょう。

私たち日本人には、自己と他の関わりというものを特に重んじるころがあります。戦後70年が経ちますが、儒教的な道徳観が少なからず失われ、偏った個人主義がどうも蔓延しているようです。他人がどう考えていようと「そんなの関係ねえ!」、自分が「そうしたいから、するんだ」と周囲を考えないで自己主張に終始する場面が数多く見られ、それをその人独自のものであり、それはそれで個性だなどと認めてはいけないのだと思います。

昨今、世の中は許容範囲が広いというか何でもかんでも個性的と評価する向きがありますが、個性には他人に「よい」と思わせるものであって欲しいのです。ですから、個性を持たなければいけない、人とは違う何か特別な個性がなければだめなんだと、あせらずに生活し、成長して行って欲しいと思います。子どもたちには、自分なりの「よい」人柄をじっくりと大切に伸ばし、「よさ」をにじみ出してくれればと思います。固く絞った雑巾をさらに絞った時にじんわりとにじみ出てくる、あの水滴のような「個性」であって欲しいと思います。